

# エダマメの栽培（露地）

J Aグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

## ●はじめに

エダマメはマメ科の一年草で、原産地は中国東北部です。晩生品種以外は播種後 75～90 日で収穫でき、病害中にも比較的強く栽培しやすい品目です。タンパク質やビタミンAが多く、夏野菜として人気の高いエダマメの栽培について紹介します。

## ●作型

トンネルなどの早出し栽培もありますが、ここでは栽培の多い露地栽培について紹介します。5月初旬に播種すると7月中下旬に収穫でき、その後順次種を播くことができます。収穫時期が遅い作型ではボリュームが少なくなるため、早生・中早生品種は9月上旬までに収穫を終わるようにします。

## ●品種

早生・中早生品種としては、「味風香」「湯上り娘」「たんくろう」などがあります。味風香はやや小ぶりですが生育の早い品種です。たんくろうは生育がやや遅くボリュームがあります。晩生の丹波黒は6月上中旬以降に播種し、エダマメとしては10月に収穫します。丹波黒は夏の高温で実が付かないこともあるので、中山間向きの品種です。

### 播種時期と収穫時期

4月	5	6	7	8	9	10
	○	.....	□□			
		○	.....	□□		
			○	.....	□□	

○播種 □収穫

## ●直まき栽培

排水性の良い圃場に、10 a 当たり窒素・リン酸・カリをそれぞれ 7kg 程度施用します。1 条植えでは幅 100cm、2 条植えでは 140cm 程度の畝を立てます。黒マルチをすると雑草防除になります。

発芽適温は 25℃程度で、10℃以下では発芽不良となります。マルチに穴をあけ、株間 20～25 cm で 1 条または 2 条植えとします。1 穴に 3 粒播種し、7 日程度で発芽するので 2 本にします。雨が多いと発芽不良となるので注意します。

## ●育苗

128 穴セルトレーに育苗用土を入れ、図のように種の茶色い部分を下向きにして播種します。逆に播くと根が上に伸びてきてしまうので注意してください。水稻の苗箱でも育苗することもできます。

ここを下向きにまく



播種後 2 週間程度で本葉が出て、定植適期となります。植え遅れるとその後の生長が遅れるので注意して下さい。



発芽の状況

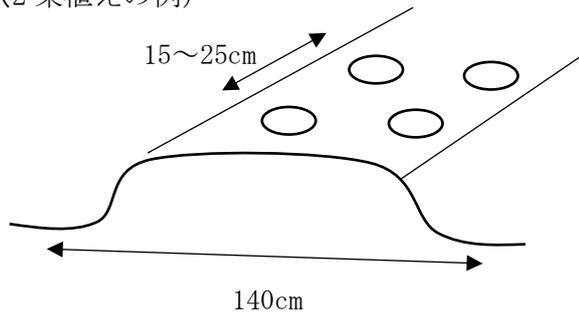


土寄せした圃場

## ●定植及び栽培管理

株間は、早生品種で15~20cm、中生品種で20~25cmとします。1条または2条植えとし、1株ずつ定植します。直まきと同様、除草のため黒マルチを行っても良いです。

(2条植えの例)



マルチを行っていない場合は、株が大きくなってきた後、肥料を少量施用し土寄せを行い株が倒れないようにします。

定植後45日程度すると小さな花が咲きます。開花後に晴天の日が続き土壤が乾燥しすぎると幼果が落ちてしまうことがあるので、灌水を行って土壤水分を保つようにします。

なお、晩生の丹波黒は株が大きくなるので、株間50cmの1条植えとします。また、株の両側に紐をひき、株が倒れないようにして栽培します。早生や中早生品種は播種後ある程度の日数で開花しますが、丹波黒は短日性があるため、日長が短くならないと開花しません。そのため、早まきしても収穫時期は早くならないので注意して下さい。

## ●病害虫防除

### ○定植時の防除

定植後に地際部の茎をネキリムシ(カブラヤガの幼虫)に切られることがあります。登録のある粒剤を定植時に散布しておくとう良いでしょう。

### ○ダイズサヤタマバエ・カメムシ類

ダイズサヤタマバエやカメムシ類は、莢などを食害するので注意します。特に、開花後の防除は大切です。エダマメに登録のあるスタークル顆粒水溶剤などを散布して、被害を防ぐようにして下さい。

## ●収穫・出荷

サヤの大きさを確認して収穫します。収穫遅れになるとサヤが硬くなるとともに黄化し、品質が低下するので注意します。収穫後は高温状態にすると食味が低下するので、できるだけ低温に保つとともに、速やかに販売するようにしましょう。

